

## 第3回生駒市総合計画審議会第二部会

### 第3回 生駒市総合計画審議会第二部会

1 日時 平成27年8月6日（金）9：30～

2 場所 生駒市役所 4階 403・404会議室

3 出席者

（委員） 久委員、大原委員、楠下委員、中山委員

（事務局） 今井企画財政部長、西川企画政策課長、小澤企画政策課長補佐、

岡村企画政策課企画係長 松尾企画政策課係員

4 欠席者 なし

5 議事内容

① 3－（1）－1 土地利用、3－（1）－2 住宅環境、3－（1）－3 地域拠点

【久部会長】 全体会で、市長交代に伴う市長マニフェストを基本計画に反映させること、市長の任期に合わせ、計画期間を1年延長するというを確認させていただいたが、今回の部会で我々の担当分野の見直し案を審議していただきたいと思う。それでは、時間を有効に活用するため、10分野単位で進めていきたいと思う。まずは、3－（1）－1の土地利用、3－（1）－2の住宅環境、3－（1）－3の地域拠点について、何か意見等あるだろうか。

【楠下委員】 配布資料中にスマートコミュニティの定義が記載されているが、交通システムだけでなく、地域エネルギーの活用なども含めた、幅広い取組となっている。「具体的な事業」の低炭素まちづくりが消されているが、これは、スマートコミュニティに含まれるということで消しているのか。

【事務局】 はい。

【楠下委員】 スマートコミュニティという言葉に言い換えるという意味か。黄色は既にもう織り込み済みということになるのか。

【事務局】 はい。低炭素まちづくり計画を策定するというで進めていたが、環境モデル都市アクションプランとの整合性の関係で、この低炭素まちづくり計画を一旦延期する形になっている。

【楠下委員】 計画延期というのは、低炭素まちづくり事業を延期するということか。

【事務局】 まちづくり計画を延期するという。国から環境モデル都市アクションプランとの整合性をとるように言われている、本来であれば、まちづくり計画と連携する形になっていないといけませんが、先に環境モデル都市アクションプランができてしまっているんで連携ができていない状況。

【楠下委員】 環境モデル都市の計画はスマートコミュニティ推進事業に相当するのではないか。

【事務局】 はい。

【楠下委員】 低炭素まちづくりは、その中のCO<sub>2</sub>に限定したまちづくりになるので、包括されると思う。

【事務局】 はい。今回は、スマートコミュニティに包括した形で、並行して記述させていただいた。

【楠下委員】 整合をとって、スマートコミュニティの中にもう既に入っていると解釈するということか。

【事務局】 はい。

【久部会長】 他にご意見はあるだろうか。

【大原委員】 低炭素まちづくりや促進の担当省は、国土交通省か。それとも環境省か。

【楠下委員】 国交省になるかと。

【久部会長】 担当は国交省。

【楠下委員】 低炭素まちづくりは、国全体の方向性なのだと思う。

【事務局】 はい。環境という分野についても、環境省だけが取り組むのではなく、そういった観点を持って各部署がやる。国交省が担当する分もあれば、ほかの省庁が担当する分もある。

【久部会長】 他にご意見はあるだろうか。

【楠下委員】 3－（１）－２住宅環境で、市長は地域包括ケアシステムや環境モデル都市と連動した環境福祉コミュニティづくりとして、福祉も含めて考えておられるが、ここの行政の4年間の主な取り組みと具体的な事業の中に福祉的な要素が少ないのではないかと思う。具体的な事業で、空き家対策事業などは行われているが、地域包括ケアシステムなどの福祉的な内容がこの中に含まれているかどうかが明確でないと思う。担当課も建築課だけで福祉的な課が入っていないが、これはどう考えたらよいか。

【事務局】 第三部会が担当の4-(4)-1高齢者向け福祉の項目の、地域包括ケアシステムの構築推進には、別立てでそれを推進してくということ今回追加している。このマニフェストの後段にある「視点を持った空き家問題への対応」を3-(1)-2に書くとすれば、建築課で実施することとなる。

【楠下委員】 その視点で考えると、物中心ということか。

【事務局】 その視点で書かせていただいている。

【楠下委員】 住宅というのは、本来住み方やライフスタイルなども含めて考えるものと思うが、どちらかという建物中心ということか。

【事務局】 はい。この分野ではそのような記述になる。

【久部会長】 ①8「地域のまちのあり方について考えて、主体的なまちづくりの活動を行っていく地域を支援します」と、①9「コミュニティづくり等の視点からまちづくりや空き家問題に対処します」の中に先ほどの話が含まれていると思う。具体的には、萩の台住宅地において、建築課と空き家対策の話をしていたが、地元の方は、建築課だからとか都市計画課だからということではなく、そのコミュニティの中で住み続けられるまちづくりをすれば、それが空き家対策になるのではないかという、かなり広い概念で進めようとしている。今は建築課と都市計画課が窓口になって萩の台住宅地を支援しているが、福祉の問題が出てきたときには、地域福祉の方に繋ぐということはやられているので、福祉も含まれていないということはないというように思う。さらに、具体的な事業の中にある、「まちづくりコンシェルジュ」が地域に入り、地域の人と一緒にまちづくりの話し合いをするなど、実際に既に動いている。

【楠下委員】 4年後のまちの2番目に、「高齢者や障がい者などの生活弱者が安心して楽しく暮らせる住宅環境の整備が進んでいる。」とあるので、ソフト事業も入れた方がいいのではないかと。建屋だけでこれが改善できるのか疑問に思うので、調整をしていただきたい。

【事務局】 まちづくりで空き家問題に対応しようとなれば、いろんな観点が必要だと思うが、いろんな多くの部署のことを書いてしまうとピントがぼけてしまうので、建築課を中心とするということを書かせていただいた。

- 【楠下委員】 空き家対策の場合に、空き家が何軒かあったら、高齢者の方の憩いの場にするとか、そういうソフト事業の空き家対策も出てくると思う。
- 【事務局】 そういう観点での空き家の有効利用というのも建築課なりに考えると思う。
- 【久部会長】 恐らくそれは盛り込まれていると思う。
- 【事務局】 この項目の表現として、コミュニティ等の観点からだけでは少し弱いのではないかというご指摘だと思うが、コミュニティ等という部分に大体含まれているという認識でいる。
- 【楠下委員】 備考でもよいので、福祉が盛り込まれている章と連携するなど、そういう文言を入れておけば、より分かりやすいと思う。
- 【事務局】 高齢福祉担当部門としては、主にニュータウン内の空き家対策ということで、サロン事業を実施しているが、住宅地内はある程度場所は足りているので、サロン事業の中身自体を充実させていくことが課題だということを知っており、住宅環境の中では、この4年間の需要が見出しにくいので、市長マニフェストからニュアンスを変えて、高齢者福祉の分野でカバーするという意向。
- 【楠下委員】 連携してやってもらえればよいと思う。
- 【久部会長】 他に意見はあるだろうか。
- 【大原委員】 3－（1）－1について、コンパクトな都市構造の実現よりも、スマートコミュニティを優先するということか。
- 【久部会長】 コンパクトなまちづくりは時間がかかるので、この期間中に実施できることが具体的な事業で書かれているのではないか。
- 【楠下委員】 北大和グラウンドの建設はそろそろ始まるのではなかったか。
- 【事務局】 県の都市計画において、市街化調整区域から市街化区域への変更が滞っている。
- 【楠下委員】 何年も延期するのか。
- 【事務局】 今年度は無理だと考えている。5年の間にはできると思う。
- 【大原委員】 我々の立場から言うと、「コンパクトシティとして生駒で全て開発するんだ」としてほしい。ただし、コンパクトシティとは何なんだとも思う。
- 【久部会長】 鉄道駅とかバス路線をきちんと造って、そこにニュータウンを開発する

というのであれば、ある意味コンパクトになる。そこへの自家用車利用を低減するような形で最初から計画に盛り込んでおくということであれば良いと思う。そのためには利便施設も作らなければならないし、交通網も整備をしておかなければならないということになる。

【事務局】 何もないところから作るのであれば、コンパクトシティを作りやすいが、既存のまちを変えていくことは時間がかかる。

【久部会長】 萩の台住宅地などが典型的ですが、歩いていける範囲に買い物施設があったにもかかわらず、住民の方が買い物に使わなかったので潰れてしまった。利便施設はそれなりの規模のニュータウンの中には計画の段階で組み込まれている。それを潰してしまったのは住民の方ということになる。

【楠下委員】 皆、車で大型ショッピングセンターに行く傾向がある。

【事務局】 若く元気なときは、多少遠くても安いところへ行かれることが多い。

【久部会長】 最近開発された白庭台においても、ミニスーパー、交番、郵便局などがちゃんと入っている。でも、住民の方が使わなくなっているから、どんどん施設が減ってしまう。

【楠下委員】 若い頃は別に構わないが、高齢になってくると、近くに店がないと住めなくなる。

【楠下委員】 若く元気なうちでも、適度に近場で買い物することが必要だと思う。

【久部会長】 生駒の西隣の四條畷の田原台にあるミニスーパーも潰れてしまっている。

【中山委員】 その利用者が白庭台の方に来られている。

【久部会長】 田原台では、その結果、自治会が頑張っていて、唯一残っている薬局をお願いして、生鮮食料品も置いてもらうようにしている。薬局が潰れたら、一切店がなくなるということで、皆さん必死に支えている。生駒でもそういう地域ぐるみの動きが出てきたら良いなと思う。

【事務局】 北大和にあるスーパーも、一時期撤退する話が出たが、地域の方々が積極的に利用しようということで存続した。いざそういう危機的状況に置かれたとき、そこで何も手を講じないか、あるいは講じられるかによって変わってくると思う。

【久部会長】 そういうことを地域の方と一緒に考えないといけない。ライフスタイルの問題を自分のこととして考えていただいて、その上で土地利用や市の施

策として何が必要かということに持っていけるようなまちづくりの話し合いをいろんなところでやりたいと思っている。

【楠下委員】 萩の台住宅地での計画では、何か従来よりも変えていこうというアイデアが出てきたのだろうか。

【久部会長】 はい。月1回の井戸端会議というのはずっと続いているので、そこで助け合いの新しい仕組みを自分たちで作っていきたいという形に持っていかれた。コミュニティがよりしっかりしてきたかなと思う。

【楠下委員】 いわゆる市民の思いや提案を盛り込んでいくということだと思う。

【久部会長】 萩の台住宅地の中でも、「税金を払っているから市役所がすべきだ」という強硬な意見も多くあった。地域で管理をしている公園も一旦返上して、市役所に管理するという話になっていたが、市役所ではきめ細かな管理ができないということで、「もう一度、自分達でできることは自分達でしょうよ」という人たちが力を持ち始め、コミュニティの雰囲気が変わっていった。まだ実現していないが、萩の台駅に日中駅員がいなくなったときにどうするかという話に対し、「滋賀では、自治会の人が駅員室をうまく活用させてもらいながら、そこを会合のスペースにして駅員がわりに地域の人が常駐するようなシステムをとっている」という話をしたら、できるのであれば考えようかという話になっている。

【楠下委員】 なるほど。

【久部会長】 それが先ほどの3-(1)-2のコンシェルジュの役割なので、また声をかけたら、都市計画課が職員を派遣してくれると思う。

## ② 3-(2)-1 道路、3-(2)-2 公共交通

【久部会長】 続いて、3-(2)-1 道路、3-(2)-2 公共交通についてご意見はあるだろうか。

【楠下委員】 辻インターの奈良方面ランプの整備は、全体をやり直すという意味か。

【事務局】 現在、東生駒から入ったら大阪にしか行けない。また、大阪方面からしか下りられない。それを奈良側にも行けるようにする。また、奈良から来てもおりられるようにする。

【久部会長】 他にご意見はあるだろうか。

(質疑等なし)

③ 3 - (3) - 1 5 R、3 - (3) - 2 環境保全活動

【久部会長】 ご意見等はあるだろうか。

【楠下委員】 追加された項目について、家庭ごみの有料化に伴って、今年の4月から推進されつつある項目だが、現在計画されている内容をさらに進めてるといふことか。

【事務局】 ほとんど現在取り組んでいる内容である。

【久部会長】 きちんと基本計画に位置づけておこうということだと思ふ。

【楠下委員】 不法投棄対策が今後更に重要だと思ふ。

【事務局】 3 - (4) - 3の地域美化・環境衛生の項目に入っている。

【楠下委員】 4月から有料化が実施され、ごみが2割程度削減されたという実績が出ているが、リバウンドしないように、これからどうしていくかが重要だと思ふ。さらにリサイクル率を上げるためにどうするか。前向きな取り組みがこれから進められると思ふが、このテーマについては、継続して実施していくということが必要だと思ふ。

【事務局】 資源ごみをきちんと分別することが段々と浸透しているということなので、それを徹底していけば、リバウンドすることも少ないと思ふ。

【楠下委員】 今の状況を見てみると、生ごみなどは処分せざるを得ないが、資源ごみは分別の状態が非常によくなってきたなと感じている。

【中山委員】 他市からの転入者はごみのガイドブックを持っているのか。

【事務局】 転入のときに渡していると思ふ。

【楠下委員】 広報紙でも紹介されている。

【中山委員】 奈良市などは大分前から分別をやっていたのではないか。

【楠下委員】 奈良市の方が先行していたように感じる。生駒市でも有料化をきっかけに意識が上がってきた。これは継続してやってもらえたらありがたい。

【久部会長】 3 - (3) - 2の市長マニフェストは、「地域エネルギーを活用した災害に強いまちづくり」となっている。この言い方は非常に重要だと思っており、環境の配慮だけではなく、自立型のエネルギーを増やすことによって、災害にも強くなるという、そういうメッセージだと思ふ。

- 【楠下委員】 はい。同感です。
- 【久部会長】 それがあまり反映されていない感じがする。
- 【楠下委員】 「地域のエネルギーを活用して災害に強いまちづくりを…」という言葉を入れた方が良い。いわゆる災害拠点としても、太陽光発電や燃料電池などの自立エネルギーを進めて行きたい。
- 【久部会長】 具体的事業の①4や行政の4年間の取り組みについて、「災害対応のためにも…」と入れていただくと、より強化されるかなと感じる。
- 【楠下委員】 はい。
- 【久部会長】 東日本大震災のときに、津波で海沿いの下水処理場が被害を受けてしまい、しばらく下水道を使えなくなった。そういうときは、自立分散型の小さな地域システムの方が強いということが明らかになった。そういう意味では、エネルギーだけではなく、いろいろな都市インフラは決して大きいものの方が良いのではないということのをこれからもっと言ってほしいと思う。大規模集中型は、拠点施設がやられてしまうと、影響が非常に大きくなってしまう。
- 【事務局】 ①4に、今おっしゃっていただいたように、「災害対応のため…」、あるいは、「災害に強い地域を目指し…」など、そういった言葉を入れさせていただく。
- 【久部会長】 さらに言えば、具体的な話になるが、学校等に太陽光発電パネルを置くときに、市民発電所のように市民の方の寄附で作っていただくとより良いと思う。実際に、吹田市では市民環境会議の人たちが中心になって、千里ニュータウンの古江台小学校の敷地に太陽光発電パネルを自分たちが寄附金を集めて置いたという例がある。
- 【楠下委員】 寄付金ではないが、生駒市では、市民エネルギー生駒という団体が、生駒市エコパークの屋根に全額市民出資で50キロワットの発電所を作った。
- 【久部会長】 市民の力でどんどんそのような地域のエネルギー施設を作っていただくのも1つの方法だと思う。
- 【楠下委員】 エコパークもいざとなれば災害拠点になると思う。
- 【事務局】 はい。
- 【楠下委員】 公共施設や学校、公園など周囲に生活スペースがあり、太陽光発電50

キロワットでもいざとなれば緊急用に使えるので、災害対策拠点としても活用してもらおうという思いもある。

【久部会長】 他に意見等はあるだろうか。

(質疑等なし)

- ④ 3 - (4) - 1 生活排水対策、3 - (4) - 2 公害対策、  
3 - (4) - 3 地域美化・環境衛生、3 - (4) - 4 上水道

【久部会長】 何か意見等はあるだろうか。

【楠下委員】 3 - (4) - 1 の生活排水対策について、生駒の場合は様々な条件があり下水道の普及率が比較的低いので、公共下水道整備計画をしっかりとやっていただくことが一番大事だと思う。それから、指標で下水道の普及率の平成30年の達成率が70.9%だということを具体的な事業に入れた方が良いのではないか。

【事務局】 できるだけ指標があるものは指標で反映させてもらい、どうしても指標が追加できない具体的なマニフェストの項目については、取組などどこかで反映しようと思っている。

【楠下委員】 分かりました。1をしっかりとやっていただくということが一番大事だと思う。

【久部会長】 3 - (5) - 1、自然的資源と、3 - (5) - 2、公園緑化についてこれも以前からやってきた事業を市長がマニフェストに取り上げられ、よりバックアップしていくということになったので、基本計画に反映していくというもの。

【楠下委員】 これはそのまま実践していただきたい。

【久部会長】 では、何か意見等ないか。

(質疑等なし)

- ⑤ 5 - (1) - 1 学研都市

【久部会長】 それでは、続いて、5 - (1) - 1 の学研都市。この分野はマニフェストなし。見直し事項もなく、指標の目標数値の1年延長のみである。何か意見等あるか。

(質疑等なし)

【久部会長】 次の基本構想レベルの全体的な見直しの際、いつまで総合計画に学研都市を残しておくのか、ずっと懸案事項で書いている。基本構想に載っている限りは残しておくということによろしいか。

(異議なし)

⑥ 5 - (2) - 1 農業

【久部会長】 それでは、5 - (2) - 1 の農業についてご意見はあるだろうか。

【楠下委員】 毎年11月のe c o<sup>2</sup>いこまでは、生駒の特産品を販売している。これはこれからも頑張ってもらいたい。

【久部会長】 一層頑張ってもらいたい。では、何か意見等ないか。

(質疑等なし)

⑦ 5 - (3) - 1 企業立地、5 - (3) - 2 商工業

【久部会長】 5 - (3) - 1 企業立地、5 - (3) - 2 商工業に移る。いかがだろうか。

【楠下委員】 企業立地支援事業か。

【久部会長】 全国で色々も行われている商工業振興を生駒でも展開しようという場面で、こういったものがある。

【大原委員】 これも以前の発言と同様、「学研都市で何もやっていないのに、いつまで総合計画に書いておくんだ」ということでなく、「書いてあるのだから、もっとやってください」という意味であり、「何もやっていないなら、消せばよいのではないか」という発言ではない。

【久部会長】 5 - (1) - 1 は、具体的に言うと、今は先端科学技術大学院大学との連携しかやっていないので、学研都市の企業立地などはこれからも重要だと思うが、ピンポイント過ぎるのではないかという話だと思う。そこにまた学研都市という名前をつけてしまっているから、タイトルと内容が合っていないと感じるかもしれない。このあたりも頑張ってもらいたい。

(質疑等なし)

⑧ 5 - (4) - 1 観光・交流

【久部会長】 何か意見等ないか。

(質疑等なし)

【久部会長】 今、秘書広報広聴課で市民にプロモーションビデオを作ってもらおうという講座をやっているそうだが、この分野にその取組を入れてはどうか。経済振興課だけでなく、シティプロモーションはやはり広報部門も重要である。「広報いこま」のセンスはなかなかいいと思うので、プロモーションの方でもやっていただければよいと思う。

【事務局】 シティプロモーションの取組みは、1 - (1) - 2 情報提供に入れている。シティプロモーションはどちらかというところ「転入者を呼び込もう」というイメージなので、情報提供の分野に入れた。当分野は観光がメインであるので入れていない。しかし、再掲という形で入れるのは可能である。

【久部会長】 そういうところに埋もれてしまうのはもったいない。

【事務局】 定住促進というか、転入促進というのは、5 - (4) - 1 には出てこない。シティプロモーションは定住に入っていたように思う。

【久部会長】 生駒は観光地ではないので「たくさん来てもらおう」ということではなくて、「市民がもっと楽しく暮らせるようにする」という観点。ゆえに、地域資源を活用し土日にレクリエーションに出かけられるようにするとか、あるいは様々なイベントが年中どこかで開催されている等が当分野での話題である。

広報が市民の知恵を借りながらプロモーションを行っているが、市民の手によってプロモーションを行うことによって、自分たちの地域をもう1回再発見できる。市役所が一方的に情報発信するよりも、市民の方にもう一度自分たちのまちを見詰め直していただいて、まちのいいところを自分たちの手で発掘し、PRしてもらおうという一連の流れに非常に意義があると感じている。今までは、市役所の職員がやるというニュアンスが強かったが、やはり、市民との協働の視点がもっとあってもよいのではないだろうか。

【大原委員】 市長マニフェストを反映した総合計画中に「商店街をはじめとする」という言葉が多く出てくる。商店街活性化と言っても、「どこの商店街を

指しているんだ」とか、「何を言いたいんだ」となってしまう。中山委員にとっては、商店街といえどどこが思い浮かぶか。

【中山委員】 ぴっくり通りしか思い浮かばない。

【大原委員】 「商店街をはじめ」というのは、コンパクトシティや中心市街地というか、「駅前の活性化を目指す」という部分で自分たちは事務所で取り組んでいる。しかし、門前町＝商店街とみなして「あそこが商店街だ」と言っても多くの人に分かってもらえるかは分からない。

【久部会長】 どちらかという、当分野に記載されている商店街等の近隣の買い物利便施設ということだろう。必ずしも、昔は商店街だったところを復活させようという意味ではなくて、近隣で買い物ができるように、もっと近隣の商業施設を活性化しようということである。

【楠下委員】 商店街というのは、やはり歩いて買い物に行ける程度の距離がよい。

【中山委員】 それくらいがよい。今はないが九条にあった商店街では、店が客の目の前で天ぷらを揚げたり、竹輪を作ったり、魚をさばいていたりしていて、お店の方と買い物客がコミュニケーションをとっていた。しかし、現在ではそのような光景が見られない。スーパーマーケットになってしまっている。

【久部会長】 様々な原因が複合しているので、商店街の活性化はなかなか難しい。

昭和30～40年代は、店を構えたらみんな買い物に来てくれた時代。その時代が長く続いたものだから、生き残り競争が激しくなったにも関わらず創意工夫があまりできていない。さらに、スーパーマーケットはマネジャーが1人でプラン設計ができる。しかし、商店街は一店一店が個別なので、まとまって「地域としてどうすべきか」という話がなかなかできない。どういう商店街であればみんな喜んで来てくれるのか、という消費者目線のアイデアがなかなか出てこない。

一方で、消費者のニーズも変わってきた。中山委員のおっしゃるように、昔は対面販売のコミュニケーションが嬉しくて商店街に行っていた。しかし、最近の利用者は、「10分で済む買い物が1時間になるのでうっとうしい」と思っている。

【中山委員】 自分の子どもたちも、それが嫌だと言っている。現代人は生活や時間に

何かと追われているから、時間的ゆとりがなくなってきたことも原因として考えられる。昔は専業主婦が多かったので商店街の買い物を通じてコミュニケーションを図るゆとりがあったが、現在は女性でも働いている人が多く、買い物時間が短縮できるスーパーマーケットに行くのかもしれない。

【久部会長】 個人商店の役割は、買い物施設だけと考えるほうがよい。神戸大学が行った商店街に来ている人の行動調査では、ある高齢女性が30分以上商店街を歩いているものの買い物をせず、人と話をしにきているケースがあった。ひとり暮らしになった高齢者のコミュニケーション作りの場という意味で、商店街は素晴らしい場所であるという調査結果が出ている。

【楠下委員】 喋るだけでも、その中からにぎわいが出てくる。

【久部会長】 今の20代や30代の何割かは、商店街型のコミュニケーションをとりたい。そのような方々が、新しくカフェを始めてみたり、雑貨屋を始めてみたりしている。そのような若い世代と近隣商店が上手く連携していくと、また違う展開が出てくるかもしれない。

【大原委員】 空き家も含めてコミュニティ施設を造って、市民が寄り集まってわいわい喋ることができる場所を作ろうといっても、何も利益が見込まれないのなら誰もやろうとしない。だから、国や行政にお願いする形になる。

【楠下委員】 コミュニティ施設での交流を通じて、また物の売り買いが始まって商店街の活性化に繋がれば興味深い。交流拠点になる。

【大原委員】 地域コミュニティに繋がっていくような。

【久部会長】 ニュータウンの空き家を利用して居場所を造ったら、そこで物を売る人や、高齢者に対するサービスを行うグループ等が、空き家を拠点として利用してくれるかもしれない。今までは、こちらは商工の振興、こちらは地域福祉といったように分野が分かれていたが、それらがパッケージ化されたとき様々な興味深い展開が生まれる。次回の総合計画全体の見直しときは、地域の問題を地域の人と一緒に総合的に解決していくという発想や、そのような観点も欲しい。

【大原委員】 商工観光ビジョンの策定と実践というのは、他に策定されるものとは違う位置づけで作られるものなのだろうか。観光交流の分野にも商工観光ビジョンの策定と実践について記載されている。

【久部会長】 しっかりと方針を共有するために頑張ろうというメッセージだと思う。そのときに、どういう観点・姿勢で作るかという部分で自分もいろいろと素案を出した。

生駒のぴっくり通り等はかなり意識が変わってきていると思うが、自分の店を守ってもらうために商業振興をやってもらうんだという意識がまだまだ残っている。そうではなくて、市役所が商業振興をやるのは、地域の方々の生活利便性を守るため。また、理事長クラスの60代、70代の人たちは力を持っているかも知れないが、アイデアがない。30代、40代の新しいアイデアを持っている人たちがもっと表に出て、商業振興と観光振興をつないでいく発想に切りかえてほしいという話をした。そういう観点が商工業ビジョンの中で明確に位置づけられていけば、興味深い展開になっていくだろう。

【中山委員】 最近は魚を買うにも切り身で買うことが多いが、魚屋が簡単な魚のさばき方を教えてくれる講習会を開催する等、「新しいアイデア」というのはそのようなものか。

【久部会長】 その通り。魚屋が魚のさばき方を教えたり、散髪屋がはさみの研ぎ方を教えたり、そのような取組は「まちゼミ」と呼ばれている。この取組は、全国の意欲ある商店街で始められている。

商業振興を行うときに、豆腐屋がちゃんと生き残っている商店街かどうかというのを我々は判断基準のひとつにしている。豆腐はきわめて単価が安いので、豆腐屋があるということは、それぞれの店舗が生き残ることのできる商店街だというひとつの指標なのである。

【大原委員】 近くに大型家電量販店があれば、個人店の小さな電気屋はつぶれてもおかしくない。しかし、まちの電気屋はまだ頑張っている。

【中山委員】 電球が切れたら交換しに来てくれたり、型番が分からなければ調べてくれたり、色々と親切に手助けしてくれるので、年配の方はまちの電気屋を利用することが多いようだ。

【楠下委員】 量販店は買うときは安いですが、修理等で家に来てもらうときにサービス料金がかなり取られてしまうし、簡単に来てくれない。何かが故障したり、電球を取り替えてもらったり、分からないことがあって家に来てもらうな

ら、やはり地元の電気店の方がよい。少しずつ地元の人々がそういったことに気がついてきた。このような近所の電気屋というのはこれから生き残ると思うし、生き残る方向に持っていくべきだと思う。

商工会議所はそういった個人の店舗をずっと抱えておられるので、個人商店のよいところを活かすような戦略を打ち出せば、地域活性化に繋がるのではないかと感じる。

**【久部会長】** 現在、近隣商業というのは物を売るだけでは生き残っていけない。逆に付加価値をどうつけていくかによって生き残りを図ることができる。そういった話を商工観光ビジョンの中にちゃんと位置づけてもらえるかどうか。さらに言えば、策定の段階から消費者の立場の人にも入っておいてほしい。話し合いの中で、「ああ、なるほどそういうことなのか」と気づいてくれる人がどれだけ増えるかということだと思う。

**【楠下委員】** ビジョンは現在策定中なのか。それとも、既にできているのだろうか。

**【事務局】** まだこれから。来年度中は難しいかもしれないが、再来年くらいには策定したい。

**【久部会長】** 来年度で大きな方針を作って、予算を上げて、再来年度から実際に動き出す、そういうペースということか。

**【事務局】** ビジョンを作るだけでなく、それを実現させていくことの両方が重要。また実行していく。

**【楠下委員】** 策定に加わってもらう各事業者には意見をどんどん吸収してもらいたいし、こんなノウハウがあるということや、こんな考え方も大事なのだということを見てもらいたいと思う。

**【久部会長】** では、何か全体を通して言いたいことや感想等あるか。

**【楠下委員】** 市長のマニフェストを拝見していると、コンパクトなまちでありつつ、行政機関や地域住民など様々な集団が連携して、楽しいまちにしたいということ意識されていると感じる。環境だけでなく、環境を通じて楽しく地域活性化できたらいいなという思いが強いように思う。計画は個々だが連携をどうするかとか、あるいは地元をどう巻き込むか等をベースに取り組んでいただいたらありがたい。

それと、やはり生駒らしさをどう出すか。奈良市と比べると、生駒は世

界遺産、国宝の数は少ない。しかし、まちに近いが緑が多く、ゆったりしている等の特徴もあるので、そこをどう生かしていくか。いわゆるどこにでもあるまちにはしたくない。

【中山委員】 大阪に近い分、交通の利便性は大変よい。

【楠下委員】 京都にも近く、場所的には素晴らしいかもしれない。しかし、生駒は通過地点になってしまい、生駒で降車して買い物してくれる人は少ない。

【中山委員】 奈良は、東向商店街など割と特色があるのだろうか。

【楠下委員】 観光客が多いので、特徴はあるかもしれない。

【中山委員】 やはり生駒であれば、竹製品や茶せんが特徴となるのか。

【楠下委員】 生駒で降車して買い物をしようとか、こんな楽しみしようとかいう拠点をいかに増やしていくか。どうしても乗換えだけをして通過する人が多い。

【久部会長】 景観計画には書かせてもらったが、西は生駒山系、東は矢田丘陵、その谷筋にでき上がっているのが生駒市。これが、生駒が緑豊かである原因である。東を見ても西を見ても緑が見えるのは、この近辺では生駒だけ。矢田丘陵の東側へ行ってしまうと少し若草山まで距離がある等、そういったことがやはり生駒の特徴ではないかと考える。さらに言えば、北側と西側は川筋が違っており、元々の水系が違うので文化も異なっている。だから、今でも北、南という分け方をする。地形に着目すると、生駒の特徴が見えてくる。どこから見ても緑が見えることを生かしていくのが大事である。

【楠下委員】 5月の環境自治体会議開催時に北コミュニティーセンターで大会があった。その際、白庭台から皆さんが歩いてくださったのだが、「こんな大阪に近いところに田んぼがあるんですね」、「すごい風景ですね」と感心されていた。市街地もあり、自然や田んぼも結構残っている。そのことに驚かれていた。

【中山委員】 高山の竹林など、自然がたくさんある。冬になったら、高山で竹を干す光景がいつも新聞に載っている。

【楠下委員】 そうですね。今は農家の方が農業をされているので田畑や森林といった自然が多く残っているが、農業を辞めて土地が売られてしまったら、きっと宅地開発が一気に行われる。そうなるや普通なまちになってしまうので、このような田園風景がいつまで残せるだろうかという心配がある。

【中山委員】 昔は竹林公園周辺に蛭がいたが、蛭もだんだんと少なくなってきた。今もあの辺りに蛭がいるのだろうか。

【楠下委員】 まだ蛭がいる。開発も行わねばならないが、自然も残さねばならないというところが生駒の難しさだと思う。両者の兼ね合いが難しい。

【久部会長】 それでは、本日の案件が全て終了したため、第3回第二部会を終了する。

—— 了 ——